

低炭素アスファルト舗装（中温化技術）用バインダー（再生用新アスファルト）

ラスファルトW

昭和瀝青工業株式会社

ラスファルト W は、再生アスファルト混合物の混合・締固め温度を 30℃程度低減できる機能を有する、プレミックスタイプの再生用新アスファルトです。ラスファルト W は、再生骨材中の旧アスファルトの性状を回復するとともに、アスファルト混合物製造時の燃料消費量を抑制し、二酸化炭素（CO₂）の排出量が削減できるため、地球環境保全に貢献します。また、施工温度域が広いこと、施工性の改善が必要な舗装工事にも適用できます。

特徴

- 再生アスファルト混合物の製造温度を通常の新アスファルトより 30℃程度低減できます。
- アスファルトプラントの燃料消費量や二酸化炭素（CO₂）排出量の低減が可能です。
- 温度低減機能の持続性があるので、施工性の改善ができます。
- プレミックスタイプのため、再生添加剤や中温化剤の投入手間が省けます。
- 再生アスファルト混合物の性状は、通常の新アスファルトと同等です。
- 施工は通常の機械編成で行えます。

適用

- 再生骨材 30%程度の再生アスファルト混合物に適用
- 環境負荷軽減対策が要求される舗装工事
- 交通開放時間の短縮が必要な現場の舗装工事
- 夜間、冬場、その他施工性改善が必要な場合

温度低減効果

通常の新アスファルトの所定の温度から 30℃低い温度で締固めても、99.5%の締固度と良好な混合物性状が得られます。（図-1、表-1 参照）

適用上の留意点

- 配合設計は通常の新アスファルトに準じます。
- 特殊な混合物の場合、事前に締固め性を確認してください。
- 中温化施工温度の目安を以下に示します。
 混合温度：120～140℃
 敷均し温度：120℃以上
 初転圧温度：110℃以上
 二次転圧終了温度：70～90℃
 交通開放温度：50℃以下

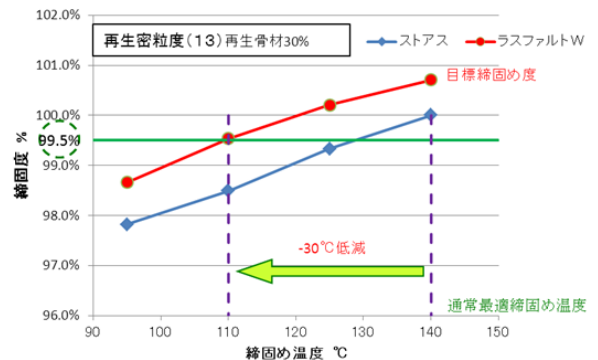


図-1 マーシャル締固め温度と締固度の関係（例）

〔 締固度：新アス 80/100 所定の締固め温度（140℃）時の密度に対する割合 〕

表-1 混合物性状（例）

〔 混合物種：再生密粒度（13）再生骨材 30% 〕

		ラスファルトW	新アスファルト 80/100
混合温度	℃	120	150
締固め温度	℃	110	140
マーシャル安定度	kN	9.09	10.87
フロー値	1/100cm	38	37
残留安定度	%	84	85